



POINT

「恋人の聖地」に選ばれた二俣橋。10～2月ごろの11:30から約30分間には、川面に落ちた橋のシルエットが、ハート型を描き出す。また、二俣橋周辺にはいろいろな橋が点在しており、「二俣五橋」と呼ばれる石橋めぐりのメッカである



石橋 Map

26 ページ 6

DATA

二俣渡(ふたまたわたし)・二俣福良渡(ふたまたふくらわたし)

所在地 / 下益城郡美里町小笠・佐保

架橋年 / 【二俣渡】文政12(1829)年

【二俣福良渡】文政13(1830)年

石工 / 不明

長さ / 【二俣渡】28.00m 【二俣福良渡】27.00m

幅 / 【二俣渡】3.30m 【二俣福良渡】2.50m

高さ / 【二俣渡】8.00m 【二俣福良渡】8.00m

交通アクセス / 松橋ICより国道218号経由20分

駐車場 / 10台

太古の自然石が描く
造形美を秘めた双子橋

どが固まってできた凝灰岩を使って積み上げたものです。「乱積み」と呼ばれる素朴な壁石の様は、肥後の石橋ならではの趣。一見不ぞろいな石も、その奥ではガッチリとかみ合い、強度を保つ姿は、まさに「肥後もっこす」のよう。その石の一つひとつに秘められた歴史と造形美に気付いたとき、二俣橋は雄弁に語り始めます。

その名の通り、二つの川を渡ることができる「双子橋」で、松橋方面を目指す者は釈迦院川に架かる「二俣渡」を行き、甲佐や熊本へ向かう者は津留川に架かる「二俣福良渡」へ。旅人たちはここで腰を下ろして、ひととき憩い、また歩き出しました。二俣橋は、人と物、そして暮らしをつないできたのです。

壁石はごつごつとして、どれも表情豊か。太古の昔に、阿蘇山の火砕流な

二俣橋

—ふたまたわたし—

